

エルサルバドル政治経済月報 (2025 年 10 月)

2025 年 10 月
在エルサルバドル大使館

外交

1. ウジョア副大統領のペルー訪問（副大統領府 SNS）

9 月 30 日～10 月 3 日、ウジョア副大統領は、第 4 回ラ米カリブ国際水域シンポジウムに出席するためペルーを訪問し、ボルアルテ・ペルー大統領（当時）、サルセド・クスコ州知事、ロペス・リマ市長、アクーニャ・セサル・バジェホ大学創設者と会談した他、ペルー議会で講演し、アンデス議会から叙勲された。

2. ミラ外務副大臣のスペイン及びポルトガル訪問（外務省プレスリリース及び副大臣 SNS）

10 月 2 日～11 日、ミラ外務副大臣は、スペイン及びポルトガルを訪問し、貿易促進、経済関係の強化、観光客誘致を目的としたフォーラム参加や各種会合を実施した。

スペインでは、バルデス観光大臣及びアエム経済大臣と共に、両国のビジネスミーティングの枠組みにおいて、観光分野等の投資と成長の機会を紹介した他、スメルソ・スペイン外務省イベロアメリカ・カリブ担当国務長官、ナルシソ・カサド・スペイン企業家評議会（CEIB）常任事務総長兼スペイン企業団体連合（CEOE）事務局長、ブルーノ・フェルナンデス経済・商業事務所ネットワーク副事務局長等と会談した。

ポルトガルでは、観光フォーラムにてエルサルバドルの観光地の魅力やビジネスチャンスを紹介した他、ポルトガル語圏諸国企業連合の副会長と会談し、ポルトガル及びアフリカ大陸との経済関係強化に向けた協力機会を模索した。また、アナ・イザベル・ザビエル・ポルトガル外務・協力担当国務長官と両国の外交研修機関の間で協力覚書を締結した。

3. ガブリエラ大統領夫人の国連世界観光機関本部訪問（大統領府 X）

10 月 21 日、ガブリエラ大統領夫人がスペインにある国連世界観光機関において、ポロリカシュヴィリ世界観光機関事務局長と会合し、エルサルバドルを家族向け旅行（ファミリーフレンドリー）の国として、「家族向け」認証マークを紹介した他、観光業従事者が家族向けのよりよい対応を可能とする研修に関する協定に署名した。

ガブリエラ大統領夫人は、エルサルバドルが人々のホスピタリティにより世界で認識されており、歴史的な治安改善により公共空間を取り戻し、最大の優先事項である子供と家族を全ての決定の中心に置いている旨述べた。

4. キューバ制裁非難決議の欠席（当地ラ・プレンサ・グラフィカ紙）

10 月 30 日付当地ラ・プレンサ・グラフィカ紙（反政府系）は、29 日に行われた国連総

会における、63 年前から続く米国によるキューバ制裁を非難する、法的拘束力のない決議を圧倒的多数（賛成 165 票、米、イスラエル、アルゼンチン等反対 7 票、棄権 12 票）で承認した投票にエルサルバドルが欠席した旨報じた。

5. ジャマイカに対する支援（ハリケーン・メリッサ被害）（大統領 SNS）

10 月 30 日夕刻、ブケレ大統領は自身の X アカウントにジャマイカへの人道支援の実施について、明日（10 月 31 日）、人道支援機 3 機をジャマイカに派遣し、300 人以上の緊急隊員及び 50 トン以上の物資も送付する旨、英語にて投稿した。

経済

1. エルサルバドルでの 2026 世界観光デー開催（10 月 1 日付外務省プレスリリース）

2025 年世界観光デー（9 月 27 日）において、2026 年開催地であるエルサルバドルへの引き渡し式典が開催された。マレーシアで開催された 2025 年世界観光デーには、加盟国から 150 人以上の公式代表が集まり、世界観光会議やその他の会議等に累計 700 人が参加した。2026 年エルサルバドルでの開催においても、政府代表団、投資フォーラム、学術会議、中小零細起業家セクターによる展示会等の参加が予想される。

2. 2025 年エルサルバドル統合支援財団 (FUSAI) 中小零細企業レポートの発表 (FUSAI)

10 月 3 日、FUSAI は、「2025 年中小零細企業 (MYPES) 報告書：経済のもう一つの側面 (La Otra Cara de la Economía)」を発表。MYPES は、2020 年～2023 年の平均で GDP の 48.8%、うちフォーマルセクターが 8.2%、インフォーマルセクターが 40.6%を占め、全体の雇用の 70%を占める。MYPES の 49.7%は法定金利の 20 倍を超える金利を設定する高利貸しを利用しており、その一因には 2013 年に承認された「貸金業法」が現実と乖離し、また取締りのメカニズムが機能しない問題があることから、同法の改正が求められると指摘した。

3. 世界銀行が経済成長率予測を 2.2%から 2.5%に引上げ（世界銀行）

世界銀行は、10 月 5 日発表の最新報告書 (Latin America and the Caribbean Economic Review, October 2025) で、エルサルバドルの 2025 年経済成長率予測を 2.2%から 2.5%へ引き上げた。ドル化政策や燃料価格管理によるインフレ率の安定性を評価した一方、海外直接投資額の伸び悩み、公的債務率の高さ等が指摘された。

4. サンミゲルバイパス展望台及び法面への亀裂（7～8 日付エル・ディアリオ・デ・オイ紙及びラ・プレンサ・グラフィカ紙）

10 月 7 日、サンミゲルバイパス展望台の地面及び法面に亀裂が発生していることから公共事業省 (MOPT) は展望台を閉鎖し、擁壁の崩落の可能性があることから片側通行への

制限を行った。MOPT は亀裂の正式な原因を特定していないが、地域住民は最近の数週間の強い降雨が構造を弱めている可能性を指摘している。ある市民は、「もともと法面は展望台を支えるために建設されたのではなく、土砂崩れを防ぐために設計されたものであるが、住民がこの場所を展望台として使用し、バイクや車両を持ち込んでいる。振動に耐えるようには設計されていない」と語った。

5. 石油輸出国機構 (OPEC) 基金による 1 億ドル融資決定 (OPEC)

10 月 9 日、OPEC 国際開発基金は、観光、インフラ、農業、農村開発における優先的投資を支援するため、エルサルバドルへの 1 億ドルの融資提供決定を発表。アルハリファ事務局長とエルサルバドルのポサダ財務大臣は、サーフシティ・プログラム・フェーズ II 及びルーラル・アデランテ 2.0 (Rural Adelante 2.0) プログラムを支援するための 2 件の融資契約に署名した。

6. ECLAC 報告書「ラテンアメリカ・カリブ海地域における生産性開発政策の展望 2025」の発表 (ECLAC)

10 月 9 日、国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会 (ECLAC) は、最新報告書「ラテンアメリカ・カリブ海地域における生産的開発政策の展望 2025：成長力の低さという罠から抜け出す方法」を発表。エルサルバドルについて、1 人あたり・1 週間の生産性は 293 ドル、地域平均 598 ドルを大きく下回り、成長率は年 0.96% とし、政府による生産性開発政策が不可欠と指摘した。

7. IMF は経済成長率予測を 2.5% のまま維持 (IMF)

10 月 14 日、IMF は最新の世界経済見通しを発表。米国相互関税の影響が予想よりも穏やかであったとして世界の GDP 成長率予想を上方修正したなか、エルサルバドルについては 2.5% のまま維持した。

8. エルサルバドル大学 (UES) と JICA による針なしミツバチの研究 (14 日付ディアリオ・エルサルバドル紙)

エルサルバドル大学 (UES) は JICA と連携し、薬用蜂蜜を生産する針なし蜂の研究を進めている。当国には少なくとも 20 種類の針なし蜂が生息し、代表的な種として目の治療に使用されるチュメロと咳や胃の治療に使用されるヒコタがある。これらの蜂蜜は人や動物の傷、切り傷、皮膚病の治療にも効果があるとされる。本プロジェクトでは、UES 農学部 of 学生と教員が日本の協力のもと、サンルイス・タルパにある実験ステーションで針なし蜂の飼育方法や育成技術を研究する。「Crevas」と名付けられた本事業では、生産者への技術指導や大学生による技術導入、さらに子供たちへの教育活動も行っており、植物園やクスカトラン公園などでミツバチへの愛情を育む取り組みも実施している。

9. ロス・チョロス幹線道路拡幅工事の一部設計見直し（17 日付エル・ディアリオ・デ・オイ紙）

MOPT は 2024 年から進行中のプロジェクトであるロス・チョロス幹線道路の高架橋設計を見直すよう求めた。見直しは米国の国際基準に沿って行われ、公共事業省（MOPT）が高架橋の元の構造設計に対する所見や欠落を認識できるようにすることで、実行可能な解決策を評価し、必要な調整を監督できるようにするもの。

10. 中米観光振興機関（CATA）による日本での観光プロモーション（22 日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

中米観光振興機関（CATA）は、持続可能な観光の促進、協力関係の強化、中米地域の文化的・自然的豊かさの紹介を目的として、日本で各種プロモーション活動を展開した。中米観光評議会（CCT）の観光大臣代表団や中米観光統合事務局（SITCA）の代表者も同行し、本ツアーは同地域と国際協力機構（JICA）との良好な関係の一環として実施された。

11. サンミゲルバイパスにおける第 8 回自転車大会の開催（22 日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

公共事業省（MOPT）及び MOPT 交通局（VMT）は、自転車利用促進を目的とし、2025 年 11 月 15 日午後 5 時よりサンミゲルに建設されたヘラルド・バリオス環状道路（サンミゲルバイパス）にて第 8 回自転車大会を開催すると発表した。ロドリゲス MOPT 大臣は「本イベントは JICA の支援を受けており、日本政府の協力によりヘラルド・バリオス環状道路が建設されたことは特筆すべきことである」と述べた。イベントには難易度別に初級 6 キロ、中級 9 キロ、上級 14 キロの 3 コースが設定され、抽選会、文化スペース、音楽ショー、無料自転車貸し出しなどの企画も実施される。

12. ラ・ウニオン港の浚渫計画に向けた堆積物調査（報道）

10 月 25 日、カント太平洋港湾連合（UPDP）社長は、エルサルバドル商工会議所（CAMARASAL）の会合にて、現在ラ・ウニオン港の泥堆積について詳細な報告書を準備中であり、今年末までに浚渫についての見解を明らかにすると述べた。ラ・ウニオン港の水路は大型船の入港のため 14 メートルまで浚渫されたが、堆積量増加のため現在入港可能な船舶は喫水 8.7 メートルまでに制限されている。UPDP は、「海流や堆積区域、再度堆積しない場所での浚渫について研究し、その結果に基づき浚渫計画やアクセス水路について決定する」とした。

13. Tigo 社による 5G サービス提供開始（報道）

10 月 25 日、通信会社 Tigo 社は、エルサルバドルにおける 5G サービス提供開始を発表。現時点で 60 万人をカバーし、サンサルバドル歴史地区、サーフシティ、アンティグオ・クスカトランなど、国内中央部の主要開発地域では既にサービス提供を開始。今年 12 月までにはサンタアナ、サンミゲル、アウアチャパン、サンタロサデリマ等でも開始を予定

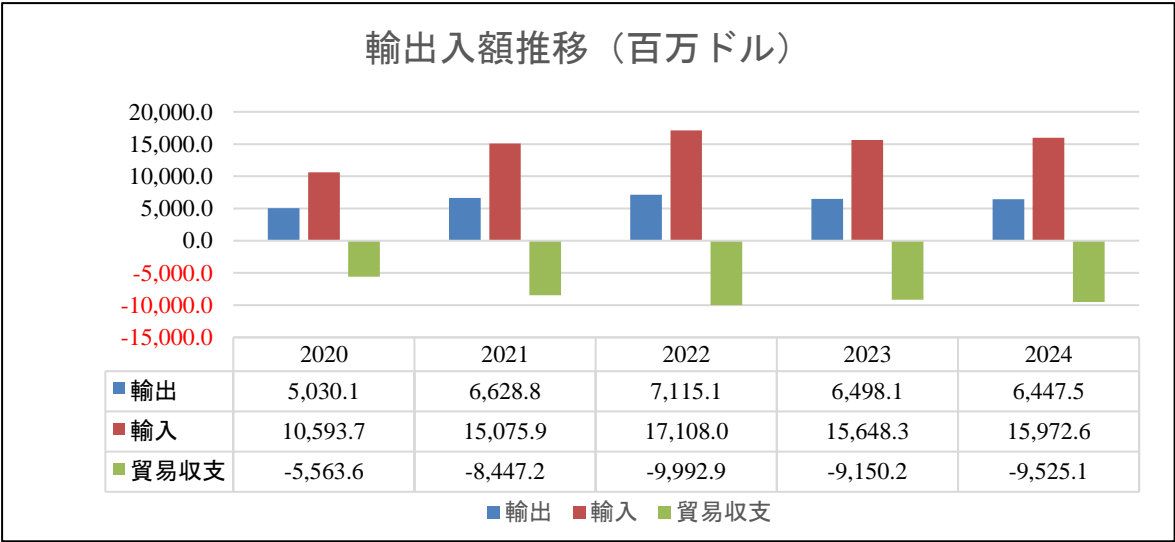
しており、100 万人以上に恩恵をもたらし、引き続きサービス範囲を拡大するとした。

14. 草の根・人間の安全保障無償資金協力による上水道設備整備（31 日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

在エルサルバドル日本大使館及びワールド・ビジョンは、東ウスルタン市コンセプション・バトレス地区にある 2 つのコミュニティへ飲料水を供給するための財政的支援を行う。本プロジェクトは独自の掘削井戸を備え、合計 104 世帯に安全な飲料水を提供することを目的としている。

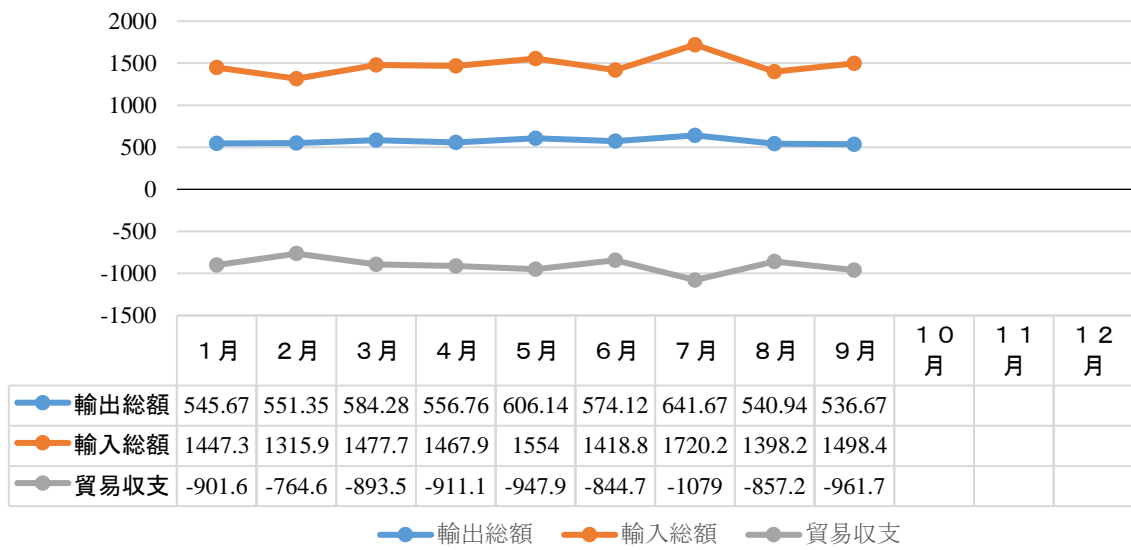
15. 貿易総額

2024 年の輸出総額は 64 億 4, 4751 万ドル（前年比 0. 8%減）。輸入総額は 159 億 7, 264 万ドル（前年比 2. 1%増）となった。



（エルサルバドル中銀データをもとに作成）

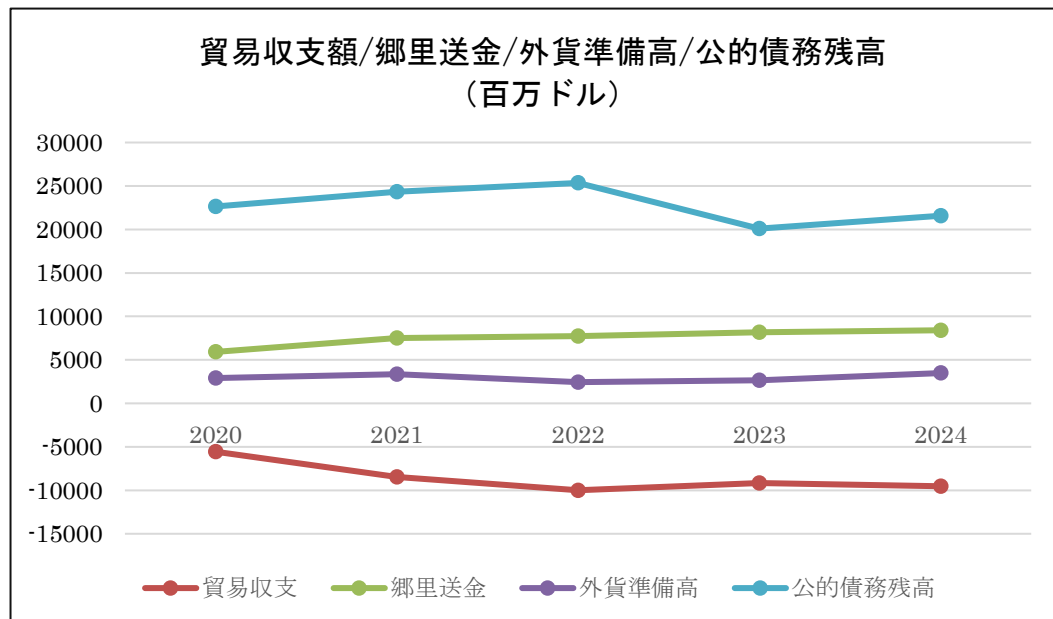
2025年9月までの輸出入額及び貿易収支額（百万ドル）



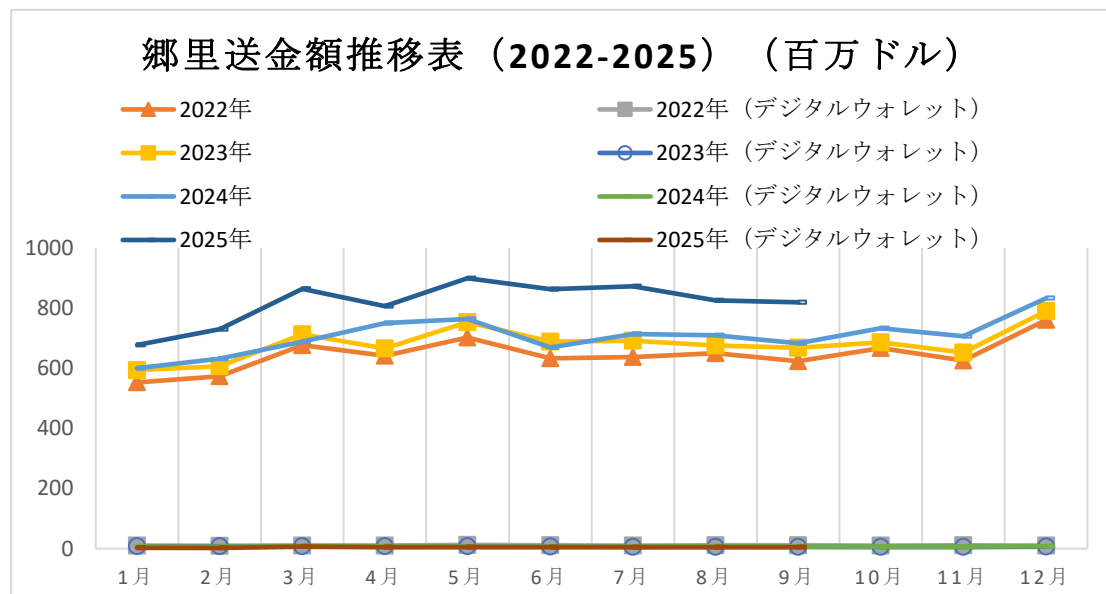
（エルサルバドル中銀データをもとに作成）

16. 貿易収支額・郷里送金・外貨準備高・公的債務残高

- ・2024 年の貿易収支額はマイナス 95 億 2,513 万ドルとなり、前年より赤字額が 3 億 7,493 万ドル増加した。
- ・2024 年の郷里送金額は 84 億 797 万ドルとなった。そのうち米国からの送金は全体の 91.6%（77 億 692 万ドル）を占めた。



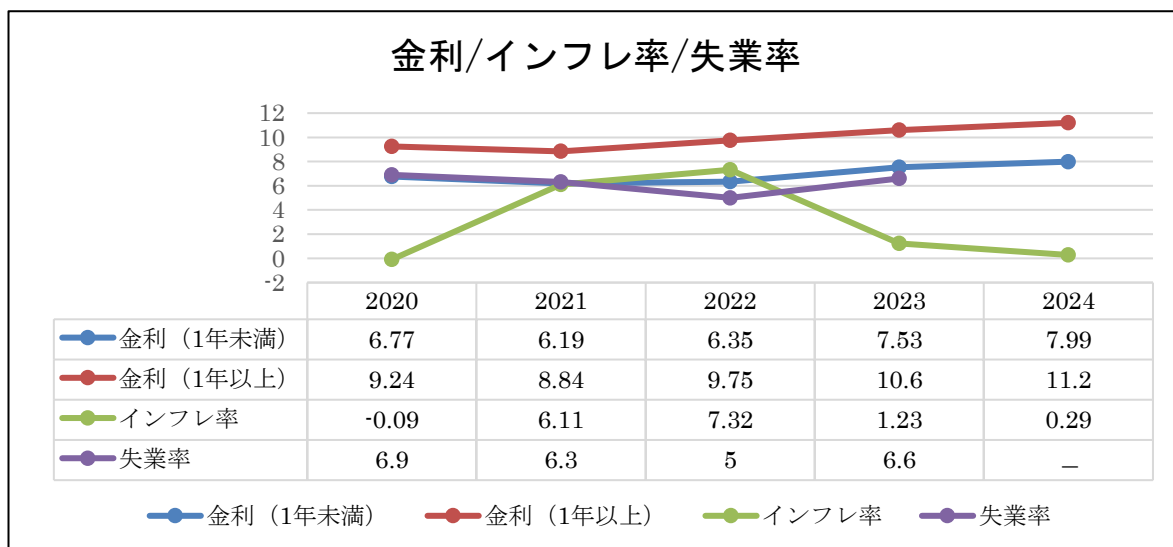
（エルサルバドル中銀データをもとに作成）



（エルサルバドル中銀データをもとに作成）

17. 金利・インフレ率

2024 年のインフレ率はプラス 0.29%であった。また 2024 年の失業率は現時点で公表されていない。



（エルサルバドル中銀データをもとに作成）